

学校名 県立大子特別支援学校

令和5年度県立特別支援学校チャレンジ2023実施計画書

1 事業名称	森林（もり）のコミスク推進事業 ― もりのこプロジェクト ―	
2 学校の現状と課題	1 現状分析 ・内部環境は、ボランティアが常駐する地域協力性が高い学校で、職員は意志統一の容易さと高いICTスキルをもつ。但し、教育課程に特色がなく公開度と認知度が低い。 ・外部環境は、社会インフラは不十分で、高齢化と人口減少を課題とし「全方位アウトドア」をスローガンに、自然資源の豊かさを生かしたまちづくりを推進している。 2 課題 ・外部資源の活用とICTの駆使による特色あるカリキュラムを魅力とする地域共生型の学校として持続可能性を高める。	
3 事業目標	1 自然体験活動に係る外部人財を主とした学校運営協議会を組織し、年間5回の協議で実践の評価と指導助言をもとに、継続改善により特色ある教育課程の共創を図る。 2 年間6回の自然体験活動ごとに、全職員が効果的な教科間の関連を示す教科関連図の作成と修正を繰り返し、年度末に学習全体を俯瞰する単元配列表として完成させる。 3 個別最適な学習と社会参加の可能性向上のため、全ての自然体験活動においてVR・ドローン等のICTツールを駆使した実践を、地域、保護者等の参加も含めて実現する。	
4 事業内容	1 大子町「全方位アウトドア」構想との連携によるWinwinの協働体制の確立 町の構想との親和性を行政機関と確認し、情報共有や人的・物的協力を実現する。 2 自然体験活動の効果的活用やまちづくり貢献をテーマにした学校運営協議会の推進 多様な自然体験活動の専門家を学校運営協議会委員に委嘱し、授業や行事企画はもとより広報、人材育成、諸施設への情報提供等、フィードバックのあり方も熟議する。 3 連携した施設・事業所やコミュニティを核とした心理的環境的バリアフリー推進 4 R7年までに全学部全学年での実践を想定した本校独自の教育課程の編成 「自然体験活動×ICT×外部人材」を共通テーマに、教科等横断的で全教科が効果的に関連付いたカリキュラムマネジメントを特色とする地域共生型学校づくりにより、児童生徒数減による持続可能性の危機において、全県下で選ばれる学校の基盤をつくる。 ○教育課程内の位置づけ 小学部：図画工作、自立活動 ・自然材を使った制作活動、自然体験活動に関する専門家を講師とした授業実践 中学部：総合的な学習の時間 ・地域環境保全を目的とした奉仕活動、特産物（リンゴ、楮）に係る専門家による体験学習等の実施	
5 評価方法	1-① 学校運営協議会での助言や提案を受け、以降の学習活動に反映できたか。 ② 中学部の総合をコアとした教科等横断的なカリキュラムを検討し確立できたか。 2-① 外部人財と連携し、年間6回（隔月1回）の自然体験活動が実施できたか。 ② 企画内容に応じて、全教科担当者が教科の関連を意識した単元配列ができたか。 3-① 全生徒、保護者が実地、遠隔等を問わず事業に参加することができたか。 ② 事後アンケートや関係者会議等で、ICT活用の効果と課題を明らかにしたか。 （※ 1～3は、「3 事業目標」の数字と対応）	
6 事業費	*	千円
7 広報手段	ア 学校のWebページ イ 学校のWebページ以外の広報手段 ※学校の取組を、積極的に外部に発信すること 新聞、大子町広報誌への記事提供、FMだいがでの情報訴求、県教委フォトニュースへの記事提供、連携先施設・事業所等への情報提供、本校学校だよりの連携事業所等への配布、公開報告会（いばらき教育月間）の企画実施、特別支援教育Co等による教育相談時の広報	
8 運営組織	①名称 もりのこプロジェクト推進委員会（令和5年度学校運営協議会と連携） ②構成員の人数 7人：校長、教頭、教務主任、副教務兼学習指導部長、小学部主事、中学部主事 ICT部長（校長を除く6名は、令和5年度学校運営協議会作業部会を兼ねる）	